

17年度全国水源連・大阪茨木実行委員会共催の「河川行政の転換を求める全国集会」

晴天の下、多数の参加により大成功をおさめる

実行委員会は「全国水源連、国土問題研究会、全国から集会に参加された方々、大阪茨木から多数参加し物心両面で支えていただいた皆さんに心からお礼申し上げます」としています。

11月4日の全国集会では155名（内、全国から北は秋田、南は熊本など13団体・32名）が参加され、クリエイトセンター多目的ホールは満杯となりました。集会では元国交省幹部宮本博司さんの自らの体験に根ざした「河川法改正20年。河川行政は変わったのか？」の基調講演に基づき議論が交わされ、河川行政を転換させるためのエネルギーは「住民運動の再構築と世代継承、政治変革のエネルギーの発揮である」との結論に達しました。

また、いのち最優先の堤防強化と流域治水など安威川治水の在り方の議論を通じて、茨木での取り組みの強化の方向について再確認しました。

また、5日の現地見学会には71名（全国から31名）参加され、予定したレンタカーバスが満席、自家用車3台を増発しました。見学会では田結庄良昭（神大名誉教授）、奥西一夫（京大名誉教授）両先生から安威川ダムサイトや貯水予定地周辺の地質問題が語られ、参加者から「地質の脆弱性に驚いた」「知らなかった」との声が多数寄せられました。この他にも全国交流会、懇親会、全国水源連の総会も開催され、成功裡に終了しました。なお大河原雅子衆議院議員（立憲民主党比例北関東ブロック選出・八ッ場ダム地元）がすべての日程に参加、日本共産党国会議員団からは連帯のメッセージ（添付）が寄せられました。